

整理番号: mitsubishishoji-7
作成日 : 2020 年 4 月 7 日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名	消石灰
会社名	全国農業協同組合連合会
住所	〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 J Aビル 33F
担当部門	耕種資材部
電話番号	03 - 6271 - 8285
FAX 番号	03 - 5218 - 2536
メールアドレス	zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先	03 - 6271 - 8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないでください。

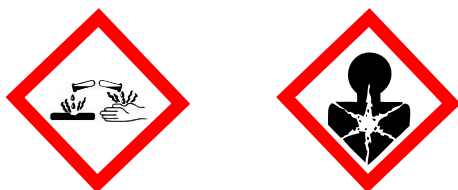
2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷・ 眼刺激性	区分 1
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (呼吸器系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肺)

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語：	危険
危険有害性情報：	皮膚刺激 重篤な眼の損傷 呼吸器系の障害 長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ
注意書き： 安全対策	保護手袋を着用すること。 保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
応急措置	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
保管	施錠して保管すること。 換気の良い冷所で保管すること。
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

化学物質
水酸化カルシウム

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
水酸化カルシウム	>95.8%	Ca(OH)2	(1)-181	既存	1305-62-0
二酸化ケイ素	<1%	SiO2	(1)-548	既存	7631-86-9

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） 水酸化カルシウム（政令番号：317）（95.8%～100%）

4. 応急措置

吸引した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
ばく露又はその懸念がある場合は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚を速やかに洗浄すること。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合は、医師に連絡すること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
ばく露又はその懸念がある場合は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤： この製品自体は、燃焼しない。
周辺火災に応じて適切な消火材を用いる。

特有の危険有害性： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
水の存在下で、一般金属と接触すると爆発性水素ガスが放出

される。

特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護： 空気式呼吸器（SCBA）を着用する。
防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置：

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の防護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に排出してはならない。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
希积水は汚染を引き起こすおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法

・機材： 危険でなければ漏れを止める。
漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項： 排気用の換気を行うこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼入れないこと。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策； 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件： 保管場所には本製品を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
酸化剤から離して保管すること。
施錠して保管すること。

安全な容器包装材料：包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
		日本産衛学会(2013年版)	ACGIH(2014年版)
水酸化カルシウム	未設定	未設定	TWA 5 mg/m ³
二酸化ケイ素	未設定	未設定	未設定

設備対策： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
高熱取扱いで、工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具： 換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具： 適切な眼の保護具を着用すること。
化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。
安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起りうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态： 個体

形状：	粉末
色：	無色～白色
臭い	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
pH	12.4（25℃飽和水溶液）
融点・凝固点	580℃（分解） ¹⁾
沸点、初留点及び沸騰範囲	分解
引火点	不燃性
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）	データなし
燃焼性（個体、気体）	不燃性
燃焼又は爆発範囲 下限：	不燃性
上限：	不燃性
蒸気圧	データなし
蒸気密度（空気＝1）	データなし
比重（密度）	2.2 ¹⁾
溶解度	水に微溶 ²⁾
オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	580℃
粘土（粘性率）	適用されない

10. 安定性及び反応性

化学的安定性：	大気中で炭酸ガスを吸収し、漸次炭酸カルシウムとなる。 加熱すると分解し、炭酸カルシウムを生じる。
反応性：	酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と反応する。 水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性／爆発性のガス(水素)を生成する。
危険有害反応性：	過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。
避けるべき条件：	水、酸類、可燃物、金属類、空気との接触。加熱。
混触危険物質：	強酸化剤、酸類。 水の存在下で、多くの金属を侵す。
危険有害な分解生成物：	酸化カルシウム。

11. 有害性情報

急性毒性：経口	成分の急性毒性値は、水酸化カルシウム7340 mg/kg、 二酸化ケイ素>5000 mg/kgであり、混合物の急性毒性推定値
---------	---

が7409 mg/kgのため、GHS区分外に該当する。
(混合物の0.95%は毒性が未知の成分からなる。)
水酸化カルシウムのGHS分類については、ラットのLD50値
7340 mg/kg (ACGIH、2001:HSDB、2005)に
基づき区分外とされる。(NITE)

経皮 データ不足のため分類できない。

吸入 (蒸気) データがなく分類できない。

吸入 (粉じん) データがなく分類できない。

皮膚腐食性及び刺激性 水酸化カルシウムが区分2で、区分2の成分濃度の合計が濃度
限界(10%)以上のため、GHS区分2(皮膚刺激)に該当
する。
水酸化カルシウムのGHS分類については、眼及び気道を含む
すべての身体表面ばく露に対し中程度の刺激性を示すとの記述
(ACGIH、7th、2001)及びヒト皮膚に対して
moderate, severe, corrosiveな刺激を示すとの記述(IUC
LID、2000:HSDB、2005:ICSC(J)、1997:
SITTIG、4th、2002:HSFS、2005)から
区分2とされる。(NITE)

眼に対する重篤な損傷性
又は眼刺激性: 水酸化カルシウムが区分1、成分濃度の合計が濃度限界値(3%)
以上のため、GHS区分1「重篤な眼の損傷」に該当する。
水酸化カルシウムのGHS分類については、ヒト眼に対して
moderate, severe, corrosiveな刺激を示すとの記述(ACGIH
7th、2001:IUCRID、2000:HSDB、2005
:ICSC(J)、1997:SITTIG、4th、2002:
HSFS、2005)及びウサギに対して**corrosive**な刺激を示す
との記述(IUCRID、2000)から区分1とされる。
(NITE)

呼吸器感作性: データがなく分類できない。

皮膚感作性: データがなく分類できない。

生殖細胞変異原性: データがなく分類できない。

発がん性: データがなく分類できない。

生殖毒性: データがなく分類できない。

特定標的臓器毒性

(単回ばく露):

成分濃度が濃度限界(10%)以上の区分1の成分は水酸化カル
シウム(呼吸器系)であるため、GHS区分1(呼吸器系)「呼吸
器系の障害」に該当する。
水酸化カルシウムのGHS分類については、ヒト呼吸器、気道を
刺激し肺水腫を引き起こすとの記述(ACGIH、7th、20
01:HSDB、2005:ICSC(J)、1997:SITT
IG、4th、2002:HSFS、2005)から区分1(呼
吸器系)とされる。(NITE)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露) :

成分濃度が濃度限界（10%）以上の区分2の成分は水酸化カルシウム（肺）であるため、GHS区分2（肺）「長期にわたる又は反復ばく露による肺の障害のおそれ」に該当する。
水酸化カルシウムのGHS分類については、Priority 2においてヒト肺を冒すことがあるとの記述（ICSC（J）、1997：SITTING、4th、2002）から区分2（肺）とされる。（NITE）

吸引力呼吸器有害性 :

データがなく分類できない。

1.2. 環境影響情報

水生環境急性有害性：(急性)

データがなく分類できない。

水生環境慢性有害性：(長期間)

データがなく分類できない。

オゾン層への有害性 :

モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 :

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
強アルカリ性であるため、酸で中和した後処理すること。

汚染容器及び包装 :

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1.4. 輸送上の注意

国際規制

Regulatory Information Not dangerous goods
by Sea

Regulatory Information Not dangerous goods
By Air

国内規制

陸上規制情報 非該当

海上規制情報 非危険物

航空規制情報 非危険物

特別の安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。

緊急時対応措置指針番号：なし

1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 名称等を通知すべき危険物及び有害物
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
(水酸化カルシウム)

1 6. その他の情報

参考文献 N I T E G H S 分類公表データ
R T E C S (2 0 0 6 - 2 0 1 1)
E C H A Registered substances Database
記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。
又、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点の御配慮をお願いします。

本SDSは下記、田源石灰工業株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については下記にお問い合わせください。

会社名	田源石灰工業株式会社
住所	栃木県栃木市河合町2番3号エクセルパルビル3F
電話番号	0282-22-8611
FAX 番号	0282-24-1355
緊急連絡先	0282-31-1212 (鍋山工場)